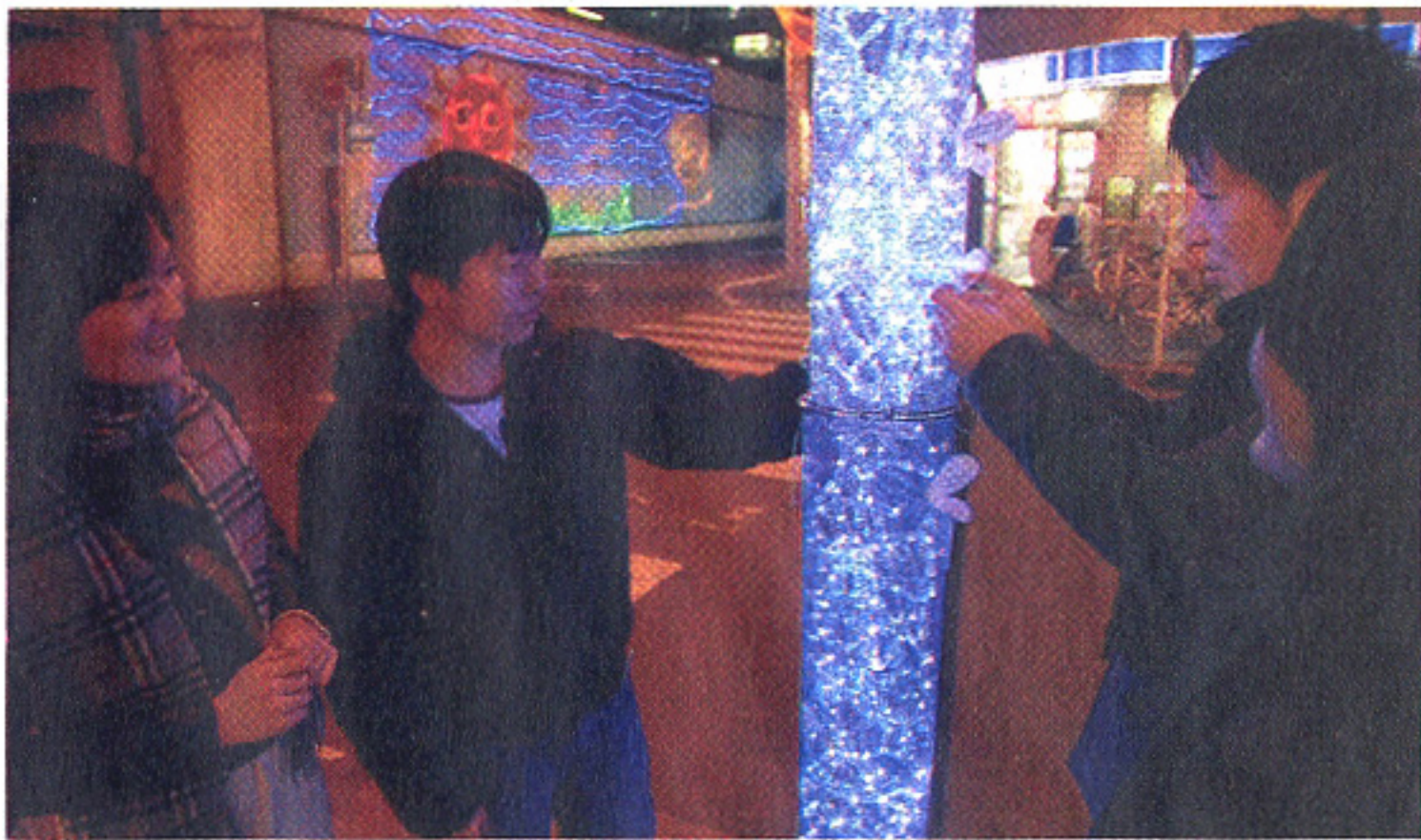


商店街に電飾・クーポン



JR大宮駅東口周辺

芝浦工大生が工夫

商店街の一角に設置されたイルミネーション。チョウの形のクーポン券が付いている

JR大宮駅東口周辺の商店街を盛り上げようと、昨年12月から芝浦工業大学大宮キャンパス（さいたま市見沼区）の学生らが、イルミネーションを使った地域活性化に取り組んでいる。学生の発案による様々な仕掛けに、通行人も思わず目を奪われている。

「大宮駅東口商店街イルミネーション化計画」と題したプロジェクトは、銀座通り、一番街、住吉通りの3商店街を対象とし、今年で4年目。建築設計などを学ぶ同大学院生9人を中心に学生約60人が企画を提案し、電飾の設置作業などを行った。2月末まで毎夜点灯し、週1回のメンテナンスを続けている。

新たな試みとして目を引

いているのが、街角のイルミネーションに張り付けたチョウの格好をした各店舗のクーポン券。割引などのサービス利用を促している。透明のゴミ箱には電飾を取り付け、捨てたペットボトルが光に反射するオブジェとして見せたり、路面に夜光塗料で人や動物の足跡を描いて浮かび上がらせたり、楽しい工夫を施した。

商店街北端の大栄橋には、J・大宮アルディージャの協力を得て、ジグソーパズルの要領で完成していく壁画（縦90センチ、横180センチ）を設置。約20店舗で配布される280枚のカードを、壁画の指定場所に張り付けていくと、満員のNACK5スタジアムの絵が

現れる。

アイデアを出した山中賢一さん（23）（修士1年）は「街に回遊性が生まれることを期待して、商店街の各店舗にはカードの設置に積極的に協力してもらった」と話す。

銀座通り商店街理事長の栗原俊明さん（35）は「昨年、老朽化したアーケードが撤去された。学生たちのこうした活動が、商店街に変化を促すきっかけになっている」と話す。

プロジェクト副代表の梅沢佑介さん（24）（修士1年）は「アンケートなどを通じて商店街との関係をより深めることができた。今後も色々な企画を出し、活動を続けていきたい」と話している。

この記事・写真等は、読売新聞社および掲載されている

本人の許諾を得て転載しています。

無断での複製、送信、出版、頒布、翻訳、翻案等著作権を

侵害する一切の行為を禁じます。